

県中教育

編集・発行
福島県教育庁県中教育事務所
発行責任者 青田 誠
編集協力
県中市町村教委連各支会
県中各地区小中学校長協議会

随想



県中教育事務所総務次長 鈴木 俊明

私の趣味の一つは、登山である。初めて山に登ったのは、小学

校二年生の時、叔父と一緒に安達太良山に登った。そのコースは、塩沢登山口を湯川溪谷に沿いながら八幡滝まで行き、そのままくろがね小屋へ向かわず、現在ではコースが公開されていない霧降の滝への沢を登り、鉄山から安達太良山を経て奥岳へ下山するというものであった。現在の私でも難儀するコースではないかと思われる。

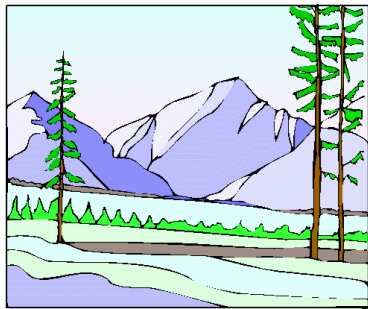
その後、本格的に装備を揃えて登山を再開したのは、結婚してからである。家族全員での山行、子どもたちが所属していたガールスカウトのキャンプ時の登山にも同行して、一切登山や安達太良山に登ってきた。

また、郡山社会福祉事務所勤務当時の同僚数名ともいつから

かは忘れたが、毎年一回は登山に行くようになった。今までに

県外の船形山・高原山、会津百名山の博士山・旭岳・三本槍岳、その他八溝山等を踏破してきた。その中でも忘れられないのは、会津朝日岳への山行である。時期は、山頂直下の岩場にまだ残雪があったので6月末か7月の初め頃であったと思われる。登山道を進むと急勾配のジグザク登りとなり、三吉ミチギという水場を過ぎて、尾根へ至る途中で本格的な雨が降り出して、全員レインウェアを着て頂上を目指した。途中の叶ノ高手付近にある見事な大クロベを眺めるのも早々に熊ノ平避難小屋で休憩をとり、最後の急登を経ると、三等三角点がある山頂であった。日本二百名山に選ばれる程の山であり、行程は長く、体力が要求されたが、頂上から見える会

津の山々の眺めは格別であった。「なぜ山に登るのか」と問われてジョージ・マローリー（英国の登山家）は、「そこに山があるから」と答えたという逸話はある名である。私が登山を続けてきたのは、下界の一切のことを忘れて無心に頂上を目指して一歩一歩歩み続ける行為が好きだからである。頂上に立つことが目的ではない。これからも、自分の体力に合った山を自分のペースで登り続けたいと思う。



生徒A夫君のこと



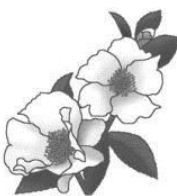
石川町教育委員会
教育長 田口 和憲

るA夫の姿があった。

まもなく冬休みを迎えようとしている十二月の土曜日。私は郡山駅前を歩く三人の家族と出会った。A夫君の弟と妹そして母親であった。「今日は、A夫の就職試験なんです。お父さんは仕事なので、私が運転で、みんなまで応援がてら送ってきて、終わるまで買い物でもしようかと・・・。」三人とも素敵な笑顔で私に挨拶を返してくれた。A夫は、中学二年の初め、自ら「不登校宣言」をし、それから暗く荒んだ日々を送った。過去に家族の中で起きたある事件が要因であったため、以来、家族を恨み、家族との食事の拒否や両親の運転する車には絶対に乗らない等の抵抗が続いていた。三学年時の担任の継続したコンタクトにより、少しずつ彼の硬い心の扉が開き始めたころ卒業を迎えた。通信制の高校に入学してからも、何かに届くA夫の姿を時々町で見かけもした。A夫は高校二年となり、町内の酒店でバイトを始めた。店主がA夫の状況をおも程度理解した上で引き受けてくれたという。それ以来、私の家にも配達に来

一年が過ぎたばかりのある朝、店のおかみさんが配達に来た。そして「先生にお伝えしたいことがあるので・・・。」と話した。A夫のことであった。「先生、A夫君は、少し違った仕事もしてみたいからと、店でのバイトを三月いっぱい辞めました。そして四月一日の朝、新しいバイト先に行く前に、店まで来たんです。そして、『今日から〇〇にいきます。これまでありがとうございました。みんなのことを忘れずこれからも頑張ります。』って、その挨拶をするためにわざわざ来てくれたんです。」と、それだけ言うとおかみさんの目からは涙がこぼれていた。

A夫君の家ではもう何年も無かった家族の団欒が見られるようになったと風の便りに聞いていた。今、駅前待つ家族の応援を受けて、無事就職試験に合格することを祈るばかりである。



「学んだことを生かし、子ども
の考えをつなぐ授業づくり」を
目指して

石川町立石川小学校

本校では、石川町教育委員会
の指定を受け、平成二十三年度
より「見通しをもって歩み続け、
互いの学びを分かち合う子ども
の育成」を研究主題に掲げ、三
年次研究として取り組んできま
した。まとめとなる今年度の柱
は「学んだことを生かし、子ど
もの考えをつなぐ授業づくり」。
既習の知識・技能を主体的に活
用する場の在り方、視点を明確
にした思考の共有・吟味の在り
方について研究を続けてきまし
た。

研究を進める中で、子どもが
主体となる授業を実現するに
は、問い
を引き出
す課題設
定、めあ
ての具体
化、友達
の意見を
予想・再
生する活
動、そし
て何より信頼感に満ちた学級づ
くりを追求していくことが必要
不可欠であるという実感を強め
ました。

十一月八日の研究公開当日
は、国語部・算数部・特別支援
教育部の計五授業について、多
くの方々に参観いただき、貴重
な意見をいただくことができました。
今後は、本時で身に付けさせ



<思考を共有するグループ活動>

る力の明確化、ねらいを達成し
ている子どもの姿をより具体的
にイメージした「学び合い」の
在り方、子ども自身が学習内容
の確実な定着を実感でき、次の
学習意欲へとつながる「振り返
り活動」の在り方等について、
さらに研究を深めていきたいと
考えています。

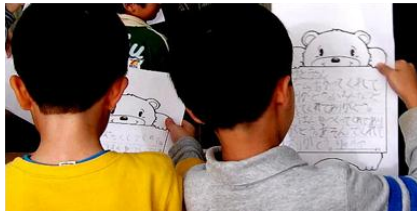


<実生活と関連付けた課題設定>

「平成二十五年道德教育研究
推進校」の取組について
小野町立小野新町小学校

「価値を真剣に追求し、みん
なで高め合おうとする、そんな
学びの『和』が響き合う教室に
しよう！」

このような思いから、今年度
は「道德的価値への自覚を深め、
よりよく
生きよう
とする児
童の育成」
を主題に
研究を進
めてきた。
教室の
中で響き
合う「和」
を創出す
るために

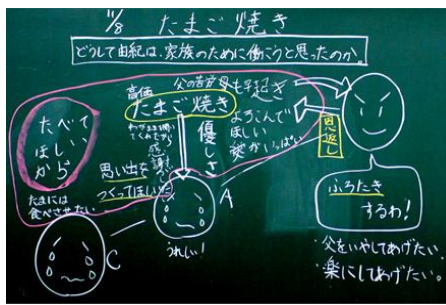


<家の人に書いた手紙を互いに読み合う>

は、まずは道德の授業、中でも
教師の発問力に磨きをかけるこ
とが大切だと考えた。場面理解
的な発問を極力減らし、価値の
本質に迫ることのできる、子ど
もたちの思考を授業のテーマへ
と導いていけるような発問で勝
負する授業を行ってきた。

研究公開では、子どもたちと
共に授業を創り上げる姿を、多
くの先生方にお見せすることが
できた。練りに練った発問を投
げかけ、子どもの考えを生かし
た板書作りをしたり問い返しを
したりしながら、子どもたちは
道德的価値について真剣に悩
み、自ら価値に近づこうとして
いた。

このような授業を続けていく
ことこそが、子どもたちに真の
道德的实践力を身に付けさせる
第一歩となるのではないかと考
えた。



<発問を中心に、子どもと創り上げる板書>



学校・家庭・地域が
一体となった学力向上
天栄村教育委員会

天栄村教育委員会

本村では平成十七年度より
「学力向上パートナーシップ事
業」の国指定を受け、小中連携
の学力向上対策を推進してきた
経緯があり、現在もその取組を
継続している。今年度、学力向
上地域連携事業の指定を受け、
これまでの取組を振り返ると
もに、今後どのように進めてい
くべきかを村校長会とともに検
討しながら「天栄村学力向上パ
ートナーシップ会議」を設置し
て推進してきた。

これまでの取組で、学校の授
業だけで確かな学力の定着は難
しい点もあり、地域や家庭を卷
き込みながらどのように推進し
ていくかが課題となっていた。
具体的には、本村特有の課題で
ある少人数集団の弊害を克服し
て学習意欲をどのように喚起さ
せるかなどの学校の課題を理解
した上で、放課後の過ごし方や
家庭学習習慣の形成などの課題
に、地域や家庭が役割を自覚し
てどう関わっていけばよいかと
いう点がポイントである。

これらの課題を受け実践とし
ては、授業交流を中心とした小
中連携の推進を中心に据えた。
各校に授業研究会を位置付け、
積極的な授業交換、意見交換な
ど行ってきた。これに少人数な
らではのICT・電子黒板を活



<研究公開での一コマ>

用した授
業づくり、
地域の素
材を生か
した授業
づくりを
関連付け
て取り組
んでいる。
また、算数、数学では、各種学
力テストの結果分析のもとに共
同で作成した分数問題を活用し
て力をつける取組も全小・中学
校共通で実践してきた。さらに、
次年度中学生になる小学校六年
生を対象にした夏休み学習会
「サマースクールてんえい」を
家庭の協力を得ながら中学校を
会場にして開催し、好評を得て
いる。家庭との連携では、「ノー
メディア・デイ」を設定し、メ
ディアをコントロールしながら
家庭学習の習慣を身に付ける力
を育てている。これら取組の詳
細については、過日開催された
県中地区学力向上担当者等研修
会の折に報告させていただいた。
今後は、研究実践の成果を活
かし、「村はひとつ、学校はひと
つ、願いはひとつ、そして、み
んなで気づくさわやかてんえい」
を合言葉に、地域との関わりを
更に重視し、「ひと、もの、こと」
の天栄の強みを活かした学校・
家庭・地域が一体となって取り
組む体制づくりや更なる小中連
携の在り方を模索していきたい。

学校教育功労者表彰 受賞者



田村市立船引小学校
校長 佐久間 光春

この度、福島県教育委員会より学校教育功労者表彰の栄に浴し、身に余る光栄なことに恐縮しております。

振り返りますと、教育に身を奉ずる者としての使命感と誇りを持ち、他に恥じぬよう頑張ってきたつもりですが、なかなか思うようにいかずに、いつも先輩、同僚の方々から親身な力添えをいただき、ようやく今日に至ったように思います。ありがたいことだと、感謝の念で一杯です。

同時に、子どもたちには元気をもらい、保護者や地域の皆様には温かく見守っていただきました。これまた感謝、感激しています。

このような日々を重ねる中で、子どもに対して「伸びよ、伸びてみよ」と、かく言う自分ほもつと伸びなければならぬのだと当たり前のことに思い至るのでした。

残された期間、これまでお世話になりましたすべての方々のご厚情を胸に、最後まで堅実な教育に励み、教職人生を結びたいと考えております。



郡山市立郡山第二中学校
校長 市川 正道

この度、福島県教育委員会より学校教育功労者表彰の栄に浴し、身に余る光栄と恐縮しております。

この度の栄誉は、これまで支えていただいた上司の皆様、先輩、同僚の皆様、そして、子どもたちと保護者、地域の方々と多くの素晴らしい出会いがあり、ご指導していただいたお陰と深く感謝しております。

昭和五十一年四月、安達郡岩代町立旭中学校に赴任以来三十八年間、中学校、教育行政機関と多くの職場に勤務させていただきました。その間、一生懸命をモットーに頑張ってきたつもりですが、どれだけ皆様のお役に立てたかははなはだ自信はありません。

今後は、今回の栄誉に恥じぬよう、子どもたちが夢と希望を持って、健やかにそして逞しく成長していくことを願い、残された期間はわずかではありますすが、精一杯精進して参りたいと思います。



田村市立船引中学校
校長 根本 保男

この度、福島県教育委員会より学校教育功労者表彰を賜り、身に余る光栄と恐縮いたしております。また、このような栄えある表彰を賜ることができたのは、諸先輩そしてこれまで出会った多くの皆様より頂戴いたしました。温かいご指導や心ある叱咤激励のお陰であると心より感謝しています。相馬郡小高町立(現南相馬市立)小高中学校を振り出しに、それぞれの時代の子どもたちや保護者、先生方と出会い、中学校教員として過ごした三十五年間。一時期のボンタンや短ラン姿の子どもたち、そして、今やスマホを自由自在に操る子どもたち、大人も子どもも大きく様変わりしましたが、これまでの出会いはどれもかけがえのない大切な思い出でした。

この度の栄えある受賞を肝に銘じ、数え切れない素晴らしい出会いに感謝し、微力ではございますが、残された期間、「確かに伝わり響りかかわり」を大切に、最後まで精一杯努力したいと思っております。



各種表彰(敬称略)

◎文部科学大臣表彰

視聴覚・情報教育功労者表彰
元県立郡山北工業高校
校長 佐藤 和紀

優良PTA表彰
県PTA連合会長
佐藤 辰夫

優良公民館表彰
郡山市立橋地域公民館
優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる表彰
郡山市御館地区学校支援地域づくり活動

優秀教職員表彰
郡山市立郡山第一中学校
主査 吉成 光男
須賀川市立仁井田小学校
教諭 國井 伸行
須賀川市立第三中学校
主任主査 鈴木 信子
県立豊学校
教諭 宗形いづみ

◎福島県教育委員会表彰

学校教育功労者
田村市立船引小学校
校長 佐久間光春
郡山市立郡山第二中学校
校長 市川 正道
田村市立船引中学校
校長 根本 保男

社会教育関係表彰
功績顕著な団体
仁井田小父母と教師の会
功績顕著な施設
郡山市立逢瀬公民館
郡山市立芳賀地域公民館

文化財関係表彰
文化財保護功労者
浅川町文化財保護審議会長
川音 正平

教育・文化関係表彰
優秀教職員の部
郡山市立朝日が丘小学校
教諭 久野由美子

郡山市立郡山第一中学校
教諭 芳賀 勝栄

郡山市立郡山第四中学校
教諭 鈴木 貞喜

県立安積黎明高校
教諭 仲野 雅彦

県立郡山養護学校
教諭 阿部 敬子

○児童生徒団体の部

▽郡山市立橋小学校
弦楽アンサンブル

・日本学校合奏コンクール
2013 全国大会ソロ&
アンサンブルコンテスト

金賞(文部科学大臣賞)
▽郡山市立郡山第二中学校
管弦楽部

・日本学校合奏コンクール
全国大会

・グラウンドコンテスト
金賞(文部科学大臣賞)

▽郡山市立郡山第五中学校
合唱部

・全日本合唱コンクール
全国大会

・混声合唱・同声合唱
金賞(文部科学大臣賞)

▽県立郡山北工業高校
コンピュータ部

・国際ナノ・マイクロアプリ
ケーションコンテスト

・国内予選一位・世界二位
▽県立郡山商業高校珠算部

・全国簿記電卓競技大会
電卓競技大会の部 優勝

◎教職員研究論文

特選
郡山市立湖南小中学校
教諭 吉田 明史

田村市立美山小学校
教諭 齋藤 孝之

入選
県立豊学校(グループ研究)
代表 齋藤 成子

天栄村立天栄中学校(共同)
校長 庄司 新一

縦務社会教育課

社会教育担当より

◆「子どもをほぐくむ地域実践プロジェクト」

平成二十三年度から郡山女子大学の滝田良子准教授を中心に推進委員によるブロック会議や一般の方々の参加によるブロックセミナーを開催し、家庭における子どもをほぐくむ環境づくりや地域教育力の向上のための有効な手立て等について考えてまいりました。

参加された様々な立場や年齢の方々からは、子どもたちが夢や希望を持てるように自信をつけていくこと。核家族化により孤立しがちな母親を支援していく必要があること。そして、地域の大人として、親として、それぞれの立場や所属している団体、各家庭において、できることに一人ひとりが取り組んでいくことが大切であること。などのご意見をいただきました。

様々な課題を抱えている家庭教育・子育ての環境ではありませんが、話題となってきたことを意識しながら保護者が子育ての意欲を高め自信をもって役割を果たせるよう、各学校やPTAにおいて、地域を巻き込みながら取り組んでいただければと思います。

今後とも御支援・御協力をよろしくお願いたします。



<参加者からテーマの提案>

◆平成二十五年度「地域防災力向上支援プログラム」

本事業は、公民館等社会教育施設が「地域の防災拠点」としての役割を果たすため、市町村における防災体制整備を支援する目的で、十月十一日を基礎編、十月二十五日を実施編として開催しました。



<ワークショップの様子>

基礎編では、日本大学工学部土木工学科の中村晋教授や只見町町民生活課の目黒健太さん、富岡町社会福祉協議会「おだがいさまセンター」北村育美さんを講師としてお迎えし、地形や地盤の特徴から自然災害を想定し、未然に防止する方策や、効果的な水害時の避難所運営のあり方、更には様々な状況下における避難所運営に対するシミュレーションを実施しました。

実践編では、常葉大学環境防災学部の重川希志依教授によるワークショップを行い、避難所運営における重要な観点を参加者同士で確認し、共有化していただきました。

次年度以降は、公共施設の職員をはじめ、運営に携わる地域の自治防災組織、婦人会の方々にも参加していただけるような内容にし、十分な成果が期待できる講座にしていきたいと考えています。

学校教育課 管理担当より

「不祥事絶無に向けて」

各教育委員会及び各学校においては、教職員の不祥事絶無に向け、常日頃から校長会、各学校の職員会議等で服務倫理委員会を中心に計画的・継続的に、堅実かつ創意ある取組が行われています。

更に、本年度、県教育委員会では、「不祥事根絶推進月間の設定」や「福島県服務倫理推進員研修会」の実施等、一人一人の服務倫理の確立に向けた具体的な取組を進めてきました。

本年度も県中管内では、体罰事故が発生しており、昨年実施しました「福島県服務倫理推進員研修会」で配布した「体罰と懲戒の定義」や「運動部活動での指導のガイドライン」(運動部活動の在り方に関する調査研究協力者会議平成二十五年五月二十七日)を活用され、具体的に効果的な取組をお願いいたします。



縦務社会教育課 縦務担当より

☆年度末・年度当初の各種手当について

① 扶養手当
次に該当する場合は四月例月でマスター7の提出が必要となりますので忘れずに事務処理願います。

ア 特定期間の子

扶養親族である子が十五歳に達する日後の最初の四月一日または二十二歳に達する日後の最初の三月三十一日を迎える場合(四月一日生まれの場合注意)
イ 子の就職
扶養親族である子が就職し、扶養親族である要件を欠くことになる場合

② 単身赴任手当

事務助言の際に不備が多く見られましたので注意ください。

ア 配偶者等の住民票謄本の写し添付漏れ

イ 別居の事情を証明する書類の不備

事情の内容により添付すべき書類が異なるので注意してください。

☆期限付職員の被保険者資格喪失届の提出期限について

平成二十五年度末で任期が満了する期限付職員に係る当該届の提出は、平成二十六年三月十五日までお願いいたします。なお、健康保険者証については、四月一日までに返却願います。

☆赴任旅費について

① 住民票は原本です。
② 着後手当加算額証明書の旅行命令権者の証明印は私印です。また、添付する領収書の写しは、礼金、仲介手数料等の金額が確認できるものをお願いします。
③ 同一市内での転居等近距離移転や、転居後も遠距離通勤となる移転、通勤事情の改善が認められないものは支給対象となりませんので注意してください。

